

2025年度 大谷大学自己点検・評価報告書（チェックシート）

基準9 社会連携・社会貢献

評価項目①		社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施していること。また、教育研究成果を適切に社会に還元していること。			
視点	内容	点検結果		当年度の評価項目に対する実施状況／前年度からの変更／その他特記事項 《箇条書きで記入／適宜、根拠資料を用いて説明》	
		前年度	当年度		
評価の視点1	社会連携・社会貢献に関する方針のもと、学外機関、地域社会等との連携、大学が生み出す知識、技術等を社会に還元する取り組みを行っているか。	○	○	■社会連携・社会貢献に関する方針（資料25-9-1-1【ウェブ】）に基づき、取組を推進している（資料25-9-1-2～3【ウェブ】）。 ■地域連携室は「地域連携プロジェクト」の継続的な支援に加え、2024年度から開始した「学生チャレンジ企画『地域に寄りそうプロジェクト』（通称「ちいプロ」）」を2025年度も実施した（資料25-9-1-2【ウェブ】）。 ■生涯学習講座をはじめとするエクステンション事業は、本学の教育研究成果を社会へ還元するという役割を担いながら、生涯学習の機会を提供している。2023年度に試行的に実施したリカレント教育講座を、2024年度以降も継続し、2025年度は4講座（合計7回）実施した（資料25-9-1-3【ウェブ】）。 ■2025年度に実施された京都市北区制70周年記念事業と連動し、リカレント講座及び生涯学習講座の一部において北区在住・在勤の方を対象に無料受講枠（人数制限あり）を設けた（25-9-1-4-1【ウェブ】～3）。 ■学術交流協定を結んでいる海外の大学・研究機関を中心に、研究交流や学生交流を行っている。2025年度はアメリカの Virginia Polytechnic Institute and State UniversityやCollege of William and Maryの学生が渡日するプログラムの中で、日本人学生と交流する機会を提供した。交流会では、念珠づくり体験や東本願寺参拝等、本学ならではの仏教分野の体験を提供することができた（資料25-9-1-5-1～4【ウェブ】）。 ■研究成果の社会への還元の一環として、各種公開講演会等を実施している。例えば、東方仏教徒協会（EBS）では、公開セミナーや公開講演会を継続的に開催している（資料25-9-1-6【ウェブ】）。	

評価の視点2	社会連携・社会貢献に関する取り組みにより、地域や社会の課題解決等に貢献し、大学の存在価値を高めることにつながっているか。	○	○	■地域連携室は、2015年度の開室以来、各地域連携プロジェクト及び地域連携室の事業を通して地域や社会の課題解決に貢献している。各種の取組を入学センターと協働して積極的にプレスリリースを行った結果、報道機関等から取材を受ける機会も増え、大学の知名度向上に寄与している（資料25-9-2-1～4【ウェブ】）。 ■地域連携室は2025年度に開室10周年を迎えた。記念事業として、11月の学園祭期間中に学外講師を招いたシンポジウムを開催した。併せて「地域連携フェア」として学園祭のテントに出展し、各地域連携プロジェクトのポスター展示・ワークショップと、地域連携プロジェクトの連携先と共同で地域に根差した商品の販売を行った。これらの活動により本学地域連携事業の活動内容を学内外へ周知し、ひいては本学全般について学外の方々へ知ってもらい本学の存在価値を高めることに貢献した（資料25-9-2-2【ウェブ】）。記念事業の一環で、2026年2月には教職員を対象にSD/FD研修を実施した（資料25-9-2-5）。 ■図書館の一般公開（登録制）、博物館の一般公開によって、社会教育（生涯学習）施設として地域課題に貢献し、大学の知名度向上に寄与している（資料25-9-2-3～4【ウェブ】）。
--------	--	---	---	---

評価項目②		社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。			
視点	内容	点検結果		当年度の評価項目に対する実施状況／前年度からの変更／その他特記事項 《箇条書きで記入／適宜、根拠資料を用いて説明》	
		前年度	当年度		
評価の視点1	社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組み及び課題を適切に把握しているか。	○	○	■ 地域連携プロジェクト及び地域連携室の事業については、「地域連携室運営会議」、「地域連携室員会議」にて定期的に点検・評価を実施している（資料25-9-3-1-1～5）。 ■ エクステンション事業については、「生涯学習推進委員会」にて定期的に点検・評価を実施している（資料25-9-3-2-1～3）。 ■ 国際交流事業については、「学術交流委員会」にて定期的に点検・評価を実施している（資料25-9-3-3）。 ■ 上記以外に各学部及び大学院で実施される社会連携・社会貢献を含め、年度末に実施される「内部質保証推進に係る報告会」において点検・評価を実施している。	
評価の視点2	点検・評価の結果を活用して、社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に取り組み、効果的な取り組みへとつなげているか。	○	○	■ エクステンション及び地域連携については、それぞれ本学社会連携・社会貢献に関する方針に基づく活動指標及びアウトカム指標を設定し、事業の改善につなげている。この結果を関係会議体（「生涯学習推進委員会」「地域連携室運営会議」「地域連携室員会議」）で共有・分析し、事業展開の検討に活用している（資料25-9-4-1～2）。 ■ エクステンション事業では、生涯学習講座の最終回で実施する受講者アンケートの回答結果を「生涯学習推進委員会」で共有・分析し、次回以降の開講テーマ設定や新規受講層の獲得に向けた検討に活用している（資料25-9-4-3）。	

(3)長所・特色 | 問題点

基準9 社会連携・社会貢献

1) 長所・特色 (あれば) ※成果を含む

No	自己点検・評価結果 (長所・特色)			
1	点検項目	基準9	評価項目①	評価の視点1
	内容	■地域連携室は2025年度に開室10周年を迎えた記念事業として、2025年11月の学園祭期間中にシンポジウムを開催した。これまでの10年間の活動を紹介するとともに今後の10年について考え、連携先をはじめとする参加者同士で学び合う場となった。シンポジウム講師には、地域貢献活動の実績が豊富な専門家を招き、好事例をご紹介いただきながら、本学の地域連携活動や参加者から寄せられた「日頃の地域活動のなかで生じた疑問・悩み」に対して多くの助言をいただいた。このシンポジウムを通じて、地域の方々のニーズを掌握し、期待に応えることができた。また、同時期に「地域連携フェア」として学園祭に出展し、各地域連携プロジェクトのポスター展示・ワークショップと、連携先が生産・製作した地域に根差した商品の販売を共同で行い、好評を博した。これらの活動は、本学地域連携事業の認知度向上に貢献した。加えて2026年2月には、社会連携・社会貢献活動で先進的な取組をされている大学の教員を講師に、学内教職員向けのSD・FD研修を実施し本学における地域連携活動の気運醸成に寄与した（資料25-9-5-1～2）。		
	さらなる発展方策 (あれば)	■特になし		
2	点検項目	基準9	評価項目①	評価の視点1
	内容	■京都市北区制70周年記念事業と連動し、リカレント講座及び生涯学習講座の一部において、北区在住・在勤の方を対象に無料受講枠（人数制限あり）を設け、地域への教育・研究成果の還元の一環とした。無料枠を超える応募があり、本学の認知度向上に貢献した（資料25-9-5-3）。		
	さらなる発展方策 (あれば)	■特になし		

2) 問題点・課題 (あれば)

No	自己点検・評価結果 (課題)			
1	点検項目	基準9	評価項目①	評価の視点1
	対応組織	地域連携室		
	内容	■ちいぷロのような全学的な活動と並行し、行政の企画と連動する活動が増加するなかで、人的・経済的リソースの調整が困難になりつつある。		
	改善計画・方策	■今後、地域連携室の活動を全学的に拡大する方針を推進し、さらに行政との連携促進、及び外部資金獲得の方針を維持するならば、専門的スタッフの獲得等、サポート体制の充実が必要になると思われる。		
	全学的な措置	☐ 担当組織で改善可能 / ☐ 大学運営会議で全学的な調整が必要 / ☐ その他 ()		
2	点検項目			
	対応組織			
	内容	■特になし		
	改善計画・方策			
	全学的な措置	☐ 担当組織で改善可能 / ☐ 大学運営会議で全学的な調整が必要 / ☐ その他 ()		